



舞台照明を勉強できる学校トップ5 —その1—

ロンドンには、舞台照明デザイナー／テクニシャンになるために勉強とトレーニングができる学校がいくつかあります。日本のように、照明を勉強するための専門学校はほとんどなく、学校で勉強したい場合は舞台を専門にする大学や、アートを専門にする大学に行くのが主流です。大学に行かなくても、アルバイトから初めて現場で学んだ人たちにも、何人かあったことはあります。どちらが良いかは、個人によるとは思います。アルバイトから始める場合は、現場の環境によって、どこまで照明の知識を伸ばせるかが大きく変わってくると思います。大学で勉強する場合は、舞台と照明の基礎を一から勉強できる上、学校内／外の劇場で実際に学生プロダクションの一員(照明デザイナー／プログラマー／テクニシャン)として役を担う機会が何度かあります。

ロンドンで舞台照明を勉強する上で最も知られている学校&大学トップ5は、Royal Central School of Speech and Drama, Rose Bruford College, Mountview Academy of Theatre Arts, Royal Academy of Dramatic

Arts(RADA)、London Academy of Music & Dramatic Arts(LAMDA)です。

Royal Central School of Speech and Drama(RCSSD)大学は3年制BA(大学学士号)で、ロンドン市内にあり、照明のコースは照明デザイン科とプロダクション照明科の2つがあります。大学内にプロセニウム形式の劇場(客席数300席ほど)と、Black Boxのスタジオ(客席数100席弱)があり、そこでプロの演出家が一員になった学生プロダクションが常に行われます。

去年のエッセイでも紹介しましたが、この大学の照明デザイン科で学ぶアカデミックは、舞台照明のメカニズム(環境照明、建築照明、映像照明の要素も少し含む)、物理、理論、要素と歴史、古典演劇と近代演劇、プロダクションの流れと照明の役割、コンピュータ上での照明デザイン、ペーパーワーク、視覚デザイン、モデルや風景描写による観点トレーニング、絵画の光分析、電気工学、計算、労働安全衛生規定などです。実技では実験室にてモデルボックスを使って、照明の色彩や角度の実験をしたり、現場での仕込

み、フォーカシング、卓のプログラミング、イントレヤハーネスを使ったトレーニング、配線、トラブルシューティング、ビデオメディアや特殊効果も学びます(最後の2つは基礎のみ)。担任の先生以外は、毎週分野によって違うプロの講師が教えにきてくれます。1年次生は理論、実技の基礎を学び、2年次生になるとプロのダイレクターを外から呼んで音響、照明、デザイン、アクティングの学生と組んだプロダクションの中で実際に照明デザインを手がけます。3年次生になると、自分の志す分野(演劇、ダンス、オペラや建築等)のプロ、または劇場に短期間、弟子入り／インターンシップをさせてもらいます。私はこの大学の照明デザイン科を卒業しました。

プロダクション照明科でも、ほぼ同じ内容のアカデミックを学びますが、実技はデザインではなく、もっと技術的な面でトレーニングをします。つまり、プログラマーやチーフ、テクニシャンになることを目指す人に向いています。この大学は何種類もの照明卓があり(Ground MA, Hog, ETC Ion、その他にも授業やプロダクションのために機材会社からレンタルしたりします)、自分の学びたい照明卓を実際に学生プロダクションで使いながら学べます。その他、プロ講師が来て、ハーネスやタワーの高所作業トレーニングや電気工事の基礎、応急処置を学んだり、機材会社や、劇場に見習い研修に行ったりします。

次の号では、トップ5の残り4校をご紹介します。



Royal Central School of Speech and Drama